



## 7

# 文化との対話： いくつかの結論

本白書の出発点は、全世界が人権に関する国際的枠組みの正当性を認め、それを適用することにある。価値観、慣習、信念が人間の行動にどのような影響を与えるかを理解することは、人権の実現を目指す人々と国を支援する効果的プログラムを立案する際の基本である。この理解は、他のいかなる領域よりも、男性と女性との力関係とそれがリプロダクティブ・ヘルス/ライツに及ぼす影響を理解する上で重要である。開発は、文化、ジェンダーの関係、人権をしっかりと関連づけて実践される。そこから創造的で持続可能な介入プログラムが生まれる。

文化は知識、アイデンティティ、力の源泉である。しかし、文化は動的で状況の変化に適応し、また文化それ自体が変化の一因となる。文化は外部の状況から変化への刺激を受けることがあるが、文化変容はその文化固有のプロセスを経て内部から発生する。

- ▶ **国際開発の関係者は、文化を無視または隅に追いやるという危険をおかしている。人権を推進するには、地元の変革の担い手を特定し、彼らと協調関係を作ること**で、**文化の複雑さ、流動性、中心性を正当に評価する必要がある。**

この協力関係は、気候変動や経済のグローバル化など外部の状況が急速に変化している時には特に有益である。

文化に配慮したアプローチは、文化との対話を成功させる手段として、経済・政治・社会・その他の要因を統合し、人々が自分の置かれた社会状況の中でどのような役割を果たすのか、また人々の選択がどのような理由からなされるのかを包括的に捉え全体像を描く。本白書はそうすることで、文化に配慮したアプローチがジェンダーの平等と人権を実現する力をもつことを明らかにする。

- ▶ **文化的知識に基づいたアプローチは、政策立案に実行可能性を与え、人権を推進するのに必要な「文化的ポリティクス」を可能にする。**

本書は、深く根を張った文化的信念がジェンダーの不平等をどのように支えているか、またジェンダーに基づく暴力が社会的・文化的規範を通してどのように続い

- ◀ **高齢の男性グループ(タジキスタン)。多くの文化の中で、年配者の小グループが伝統的に住民すべてに影響を及ぼす決断をしてきた。**

© Warrick Page/Panos

てきたかを説明する。女性自身がこの社会的・文化的規範を強化し永続させることに加担している場合もある。同時にジェンダーの平等の問題は、目に見える次元と見えない次元の権力に対する文化闘争—すなわち「文化的ポリティクス」であり、これなくしては決して進歩はなかった。「文化的ポリティクス」には、支配的な文化的意味づけに替わるものを創造することも含まれている。

歴史、権力関係とその変動、政治、経済などの特徴を分析することで文化を解釈する方法は、状況がどうなっているかを超えて、なぜ現在のような状況になるのか、状況はどう変化しうるか、何が変化に影響を及ぼしているのかを理解するのに役立つ。この「文化的ポリティクス」は効果的な政策決定に重要である。なぜなら、この戦略は政策の背景を提示し、戦略的パートナー関係を可能にし、介入の場を特定し、政策が地元の活動と歩調を合わせその活動を支援することを確実にするからである。

人権の枠組みができるにつれ、人権をめぐる言語と政治戦略が文化的変化を生む余地を開いた。人々は権利という言葉を使って自分たちの主張を行う。なぜなら、権利はあらゆる文化に共通する差別と抑圧に抵抗する言葉だからである。人権に焦点を絞って文化と対話することは、抑圧を問題として取り上げ、これを非合法化し、長期的には廃絶するのに効果的である。

人々が何を信じ、何を考えているのか、また何が人々にとって意味のあることなのかを知り、またその知識を使って活動するにあたって、あらゆる価値観と慣習を平等に受け入れる必要はない。文化に精通することによって、有害な文化的信念と慣習に対し重要な洞察ができ、同時に能力強化につながる肯定的側面も洞察できる。この肯定的側面は権利に基づく慣習を支えることができる。これは人権を推進するための文化的正当性を強固にする上で、継続的に必要とされる要件である。

▶ **文化に精通すると、意味体系、経済的・政治的反対または支持政策がどのようにして発生・展開するのか、また発生・展開させられるのかが判断できる。**

地域社会、家族、個人のレベルにおける人口問題は、産

む子どもの数と産む時期に関する決定、ヘルスケアと健康に関する行動についての決定、子どもへの投資(子どもの性別と将来に期待される家族への見返りに左右されることが多い)に関する決定、および母親と子どもへのケアの質に関する決定に行き着く。これらの決定はすべて固有の文化的背景の中で行われる。

これらの決定は、いかなる国においても貧困率と諸政策に影響を与える。例えば妊産婦死亡率は、ある社会の中にまたは国家間に存在する、持つ者と持たざる者との間の巨大な隔たりを反映する。同時に妊産婦保健の指標は、利便性、ジェンダーの平等、制度の効率性という点から保健制度の実績を評価するのに使用される。こうした複合的要因は、政策策定と実施の過程で確認し評価すべき重要な側面である。例えば思春期のリプロダクティブ・ヘルスの分野で見られる情報・サービスの提供に対する反対は、それが政治の舞台で繰り広げられたとしても、その根は文化にある。

移住者からの送金は単なる経済現象以上に重要な意味をもつ。そこには、安心を与えるという家族および地域社会の責任と義務を、文化がどのように読み取り、どのような形に転換しているかが現れている。同様に文化は、受け入れ国が移住者を拒否するか受け入れるかを決定したり移住者対策を策定する際に、非常に重要な役割を果たす。文化には密売買の力学という特徴がある。それは送り出す側と受け入れ側双方の社会にとって有害である。文化に精通するには、文化の中心性、文化の相互作用の領域、およびこれらの問題に取り組むために必要な協力関係の性質・範囲・方法を認識することが必要である。

▶ **より一層文化に精通するために、UNFPAはプログラム策定的手段として「文化のレンズ」を提案する。**

文化のレンズは、ジェンダーの不平等を支えている慣習と闘い、これを変化させるにあたって様々な要素を確認するのに役立つ。このレンズはUNFPAが協力相手と共に活動し、個人、集団、地域社会と交渉して連携を築き、効果的な計画立案を通して人権を実現させるのを助ける。

文化に熟知した視点は、権力の多様な側面と権力が文化



▲ ハイチの警官。法執行官のような伝統的に男性が支配的な職業に女性を参入させるには、さらに多くの行動が必要である。

© Carina Wint

の内側でどのように作用しているかを見極める。人々は他から説得されることなしに、文化的規範を評価し受け入れるかもしれないが、同時に文化は権力構造と社会関係を維持すべく操作されてもいる。文化の支配が目に見える場合は、権力の側面が隠されていて目に見えない場合より認識しやすい。隠れた権力は、いくつかの問題が討議の議題に上ることすら妨げている。目に見えない、あるいは内面化された権力は、最も厄介なものかもしれない。人々は自分自身を否定的に見て、自分たちに害の及ぶ文化的規範を受け入れるかもしれない。様々な権力形態は、政策に対して異なる意味を内包しており、文化に配慮したアプローチはそれらに適合しなければならない。

文化に配慮したアプローチは、女性のエンパワーメント（能力強化）とジェンダーの平等に向けた国の努力を支援する中で、目に見える権力関係を超越、女性と男性の（公的・私的・性的）生活が交差するレベルで権力がどのよう

に形成されるかを理解し対応しようとする。このアプローチによって、ジェンダーを取り巻く文化的圧力がいかに男性の危険な行動を増やし、そのことによって彼らがますます性的に不健康な状態に陥りやすくなっているかがわかる。それは結果として、男性が他の人に助けを求める可能性を減らす。その代わりに、自分が「真の男性」であることを証明しようとして複数の性的パートナーを求める可能性がある。男らしさをめぐる文化的圧力は、性的抑圧とあいまってレイプやその他のジェンダーに基づいた暴力の件数を増やしている。

文化に配慮したアプローチは、「ジェンダー」「自由」「平等」の社会的解釈が、文化の違いによって異なる意味をもつということを認識している。一つの型をすべてに適用しようとする介入策は、利点よりも害が多い場合がある。そうした例は武力紛争下の状況に多く見られる。そこでは男性は攻撃者および暴君として表現され、女性は受動的で、無知で、有害な権力関係を変える力がないものと描かれる。こうした弱さを想定してしまうと、開発援助者の眼には武力紛争で痛めつけられた人々の回復力と創造性が見えてこない可能性がある。こうした過度の単純化は開発援助に対する反発を生む可能性があり、女性のエンパワーメントとジェンダーの平等に反対する人々の術中に陥る恐れがある。

▶ **文化に配慮したアプローチは、開発に携わる関係者の間に、異なる分析の枠組みと作業枠組みを求め内省を促す。**

文化に配慮したアプローチが求めるのは、基本的には文化を含んだ人間の現実を政策の基盤とすることであり、人間の優先事項や目的に関する抽象的論拠、壮大な理論、一般化された想定が基盤なのではない。

文化に配慮したアプローチは、極端な自民族中心主義を排斥する。このアプローチは、例えば妊産婦の健康と加齢が文化的状況の違いによって非常に異なる意味をもつ可能性があることを認識している。また、こうした違いとその意味を理解するよう努め、人々は「われわれ」がするように考え行動するはずだと想定するのではなく、人々（女性も男性も）の考えや行動は、なぜ、どのようにしてそうな

るのかを探ろうとする。

開発関連の制度の内部で自民族中心主義に取り組むことは、各自がそれぞれの文化的枠組みと立ち向かうという自己反省的な実践を伴うため、とりわけ困難になると考えられる。その作業には、組織と個人がどのように力を行使し、どんな結果が得られたかについての率直な分析も要求される。

文化に配慮したアプローチは、人々とその文化を見境なく一般化することはしない。このアプローチは、人々の意図、優先事項、能力について既成の想定を容認するのではなく、人々の努力を知り、それに順応し、その努力に依拠することに時間をかける。このアプローチは、同じ文化的状況にいる人々が異なる価値観や目的をもつことがあることを認識する。このアプローチは、対話と相互の変化の基盤となる、地域についての深い知識－精通すること－と人間関係を追求する。

「他者」を変えるために文化的メカニズムを利用することが唯一の目的である場合、文化的な意識と取り組みは非常に狭い範囲でしか役立たない。文化に配慮したアプローチは、文化そのものおよび文化が開発のプロセスにどのような影響を及ぼすかについて、批判的考察を行うための基盤を提供する。このアプローチは、開発に関係する組織と個人が従来の考え方や活動の方法と向き合い、それを変えていくことを促す。

本書は開発従事者が文化を軽視することは危険であることを示している。それは文化がすべてという理由からではなく、貧困、不健康、教育の欠如、紛争もまた文化を破壊し衰退させる一因だからである。したがって、文化に精通すること、文化的ポリティクス、人権抑圧と人権否定の根本原因に取り組むことの間には密接なつながりがある。

文化に精通することは、開発への多面的アプローチの不可欠な部分であるが、他とは明らかに異なる優れた分析方法というものではない。文化に配慮したアプローチは、差別なしに住民すべての幸福を目指してコミュニティと共に活動する人々の間に謙虚な気持ちを起こさせる。このアプローチの関心は、人間開発の基本である互いに認め合い尊重し信頼する関係を構築することにある。